

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 マーガレット)

事業所番号	0673200341		
法人名	株式会社 MSC		
事業所名	グループホーム燦燦		
所在地	山形県飽海郡遊佐町遊佐南大坪12-1		
自己評価作成日	令和2年 11月 10日	開設年月日	平成 27年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年は、地域の方々から事業所の夏祭りや行事等に参加して頂き交流を深めていますが、今年は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、行事を縮小し、外部の方の招待は中止とし、ご利用者と職員のみで三密にならない行事を行っています。婦人会・中学生ボランティアの受け入れも出来ない現状となってしまいましたが、婦人会の方々より雑巾の寄付があったり、地域の文化祭へ作品を出展し、コロナ禍の中でもグループホーム燦燦を発信できる取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、理念と短期的な4項目の目標を基に、「プロとしての意識を持ち利用者の笑顔溢れる毎日の生活」を実現しようと努力している。特に、今年はコロナ禍の中で十分できないが、開設以来地域活動への参加・事業所行事への地域から参加などに努めた結果、交流活動が多くなり、地域で生活する感覚が大きくなっている。また、前回の目標達成計画を踏まえて、利用者や家族の意見を基に、利用者の役割を加えより良く生活できるような自立に向けたプランの作成に努めている。今年は「レクリエーション活動」を介護目標とし、オカリナ等の楽器演奏や歌を唄うことに努力し、明るく、楽しい雰囲気の中での支援に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 2年 12月 8日	評価結果決定日	令和2年 12月 25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念と目標を考え見える場所に貼り、共有・実践につなげています。	全員で見直しをした理念と短期的な目標を見やすい場所に掲示し、全体会議で確認しながら、「利用者の笑顔あふれる毎日の生活を家族や地域と共に支援」している。管理者は現在、目標の4項目のうち、特に職員間、職員と家族や医師との間の「情報共有」を中心に話し合いを進め、理解の具体化と実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、燦燦の夏祭りや行事へ、地域の方々が来てくれたり、地域の行事にも積極的に参加していましたが、今年は、コロナの影響があり、施設内での行事を工夫して行っています。例年行っている婦人会ボランティア受け入れや地域交流、中学生職場体験等も中止となっています。	前回の目標達成計画を実現する努力をしている。これまで、自治会に加入して回覧板や広報紙を交換したり、燦燦の行事への招待や地域行事に参加、ボランティアや学習生を受け入れたりしていたが、今年はコロナ禍で交流計画の多くを自粛している。それでも婦人会から雑巾の差入れがあったり、事業所の広報を回覧板に挟んでもらったりしており、状況が落ち着けば、計画を再開する予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染予防の為、中学生の職場体験は受け入れ行えませんでした。キャラバンメイト活動も今年に限っては行えませんでした。事業所の広報を回覧板で回し、日頃の様子や活動を知ってもらえるよう心掛けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、行政、地域包括支援センター、区長、民生委員、家族代表の参加で開催して事業所の状況報告、課題について話し合っています。コロナの影響により、集まっての会議は行わず、書類での開催を行って対応した時期もありました。	本年は、2か月に1回、家族代表・町・包括センター・区長・民生委員の参加を得て、会議形式または報告方式で開催している。会議では、年間計画・行事やヒヤリハット事例などについて報告し、情報や意見を頂き、サービスの向上に活かしている。今年度は感染症にかかる課題についての多くの意見をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密にしており、困難事例については、町や地域包括支援センターへ相談し、一緒に対応して頂いたケースもあります。日頃から相談、協力が得られる関係となっています。	町職員からが運営推進会議に参加して頂き、事業所の取組や状況を理解いただいている。町主催の在宅医療介護連絡協議会に参加し情報交換等が行われ協力関係を築いている。利用者にかかる問題等へは担当窓口と直接やり取りし協力して問題解決に向け取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	内部研修で身体拘束について学び、正しく理解しています。利用者の状態を考慮し、玄関に鍵をかけない工夫や取り組みを行っています。眠りスキャン、足元センサーを利用している方は、記録に残しています。	内部研修で身体拘束について学ぶとともに、外部研修に参加し、伝達研修を行い、職員間の理解を深めている。身体拘束適正化検討会は毎月実施し、不適切なケアがないよう確認している。突然帰宅したが利用者など危険につながる行為を引き起こす利用者には、その方の生活履歴など特性を職員間で検討し合っ、寄り添いながら見守ることで玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、虐待や不適切ケアについて話し合い、日々防止に努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や地域包括支援センター、家族や本人と話し合い、必要に応じて提案、活用できる様支援しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、担当ケアマネを通し、施設の内容や料金については話をしています。契約や解約時、変更事項があった場合は、文書を基にわかりやすく説明し、理解や納得を得ています。今年は、感染予防対策として、施設見学は実施していません。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者の希望、意向等を聞き日常生活や行事等へ反映させるようにしています。家族アンケートを定期的実施し、支援に反映させています。	利用者については日々の生活の会話等から希望・意向を汲み取っている。家族については、定期的に家族を対象にアンケートを実施し、意見や要望を聴いている。日々の生活の様子や施設内の行事を手紙等で伝え、家族等との信頼関係を築き意見等表しやすい関係を大切にしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎日の申し送りなどで、意見や提案を聞き反映させています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状態を見たり、職員会議へ出席、研修や行事の報告書等により、状況や実績を把握しています。年に1回以上の個人面談を設け、日々聞けない意見や要望を聞き、職場の環境や条件の設備に努めています。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実績と力量を把握したうえで、研修を選び参加出来るようにしています。研修へ参加した職員は、職員会議で講師役となり、伝達研修を行っています。	職員一人ひとりと年1回以上は面談し、自己評価や希望について話し合いケアの実際や力量を把握するとともに、指導することで質の向上につなげている。毎月計画的に内部研修を行い、時宜にかなった学びの機会が確保されている。外部での研修の成果は、全体体会議で報告し、全職員が共有している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、例年は研修会や交換実習等、積極的に参加しています。他施設への行事参加は今年には行えませんでした。情報交換をし、ネットワークづくりやサービスの質の向上に努めています。地域の多職種連携研修会へ参加し、情報交換を行っています。	例年は県・地区グループホーム連絡協議会の研修会や交換実習等に参加して学び、交流を深めている。今年度は、同会のメンバーとの情報交換や、町主催の在宅医療介護連絡協議会メンバーとの意見交換・交流にとどまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談をし、身体状況や生活状況、困っている事、要望等について聴き安心して生活が出来るよう関係づくりを築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事、どのような暮らしをしてほしいか等、意見や要望を聴き取り、家族等の立場を理解しながら把握に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聴き、どのような支援を必要としているか見極め、サービス利用につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の第2の家になれるように、利用者信頼関係を築きながら、掃除や洗濯物干し・たたみ、茶碗拭き、裁縫等々、かつて経験してきた事を活かしてもらえよう環境を整えています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も、家族が一番近い存在となるよう、日々の生活の様子や施設内行事の事を手紙や広報、電話、面会時に伝えています。感染対策として行事へ参加して頂く事を中止としておりますが、例年は行事にも参加して頂き、交流を深めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナの影響で、今まで通りの外出はできませんが、町の広報や出来事などを、会話の中で伝えています。紅葉の時期は、少人数で密を避けドライブをし、馴染みの風景を見て楽しめました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍で外出もできない状況ですが、毎日一緒に洗濯物たたみをしたり、食材の下ごしらえや、作品作りを通して、利用者同士の関わりを深めており、孤立する事がないよう職員が間に入りスムーズに交流が図れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所申請の際や更新時、意見書を提出しています。契約が終了した場合でも、本人や家族の相談に応じ支援を行う用意があります。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を傾聴し、意向の把握に努めています。センター方式を使いアセスメントを行っています。困難ケースは、申し送りや会議等で意見交換し、職員間で情報共有に努めています。	担当者がセンター方式に従ったアセスメントを詳細に行うとともに、個人の意向や希望が詳細に記載され、新たな気づきを書き加えられている。職員はそれを共通の認識として話し合い、利用者の視点に立った支援の在り方が検討されている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や生活の中で、生活歴や馴染みの暮らし、環境等について本人や家族、馴染みの人に聞き把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人ケースに記録し、特記事項は申し送りノートやユニットノートに記入し、他カンファレンスを行い、職員全体で一人一人の状態把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、申し送りや会議等で課題と支援のあり方について話し合い、意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	前回の目標達成計画に従い、何も変化がなければ6か月に1回、毎月のモニタリングなどを基に課題と支援のあり方について話し合い、家族の意見や職員の意見を踏まえて、現状に即した介護計画が検討されている。計画書は、本人や家族の希望は話し言葉で記載され、また、本人のできることを日々の役割となるように意識され、支援内容が記述されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート、ユニットノートに記録し、情報共有しており、実践や介護計画の見直しに活かしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が今まで住み慣れた地域との交流を図りながら過ごしていけるように支援しています。行きつけの美容院に予約を入れ、密にならない様に対応してもらっています。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院に引き続き受診が出来るように支援しています。受診時は、日々の情報提供を行っています。通院が困難な利用者は協力医や主治医による往診で対応しています。	本人や家族が希望するかかりつけ医を、基本は家族の付き添いで受診できるように支援している。往診してくれる医療機関も3機関ある。受診に際しては「相談表」を医師に持参し、受診結果については、情報提供書の所定の記載欄に主治医が記載してくれる場合もある。記載ない場合は職員が記入し、情報を交換し共有化を図っている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日利用者の状態を把握し、情報や気づきを申し送りし、看護師に報告、相談をして適切な対応が受けられるように支援しています。訪問診療では、相談表を用いて適切な伝達ができるようにしています。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に病院側と情報交換や相談に努めています。退院時は病院との情報共有やサマリーを確認し、不明な点は問い合わせを行い、退院した後もスムーズに対応できるよう努めています。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書をもとに説明を行い、同意を得ています。重度化した場合は、家族や医療関係者と話し合いを行い、適切に対応しています。当事業所は、看取りは行っていません。	入所時に事業所で出来ることと出来ないことを詳細に説明している。変化があればその都度、主治医・看護師・家族と話し合い、その時々に応じた支援方針を話し合い、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人工呼吸やAEDの研修を受け緊急時に備えています。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2～3カ月に1回、自主的に避難訓練を実施し、利用者が避難出来る方法を全職員身につけています。デイサービスや近隣とも協力体制を整えており、消防の指導も受けています。防災頭巾を用意しており、食糧、水、トイレ等の備蓄も行っています。	2～3か月に1回、火災・地震など、昼間や夜間など様々な災害・場合を想定し、避難訓練、器具取り扱い訓練などを実施している。併設するデイサービス事業所などと協力して実施している。年に1回は消防署の指導・協力を得よう努めている。訓練の結果は毎回記録し評価しているし、運営推進会議でも報告している。町のハザードマップも確認している。食料等の備蓄も行っている。	
町の					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴等を踏まえ、自尊心を傷つけない対応をしています。利用者に対しての接し方については、申し送りや会議で話し合いを行い、個別指導も行っています。	理念にある「介護のプロとしての意識を持ち」、自尊心を傷つけないような言葉掛け、プライバシーを損ねない配慮に努力している。気付いたことはその都度、個人的に又は会議で注意し合っている。管理者は特に、「親しき中にも礼儀」を意識した言葉掛けを指導している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	安心、安全に共同生活が送れるように、一人一人と向き合い、自己決定できる雰囲気作りに努めています。誕生会のメニュー等、本人が食べたいものを聞き、取り入れています。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合を優先せず、利用者一人一人のその日の状態を見ながら出来るだけ希望に添えるように、その方のペースで過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ行ったり、カット・カラー・パーマ等本人の希望に添って行っています。その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、職員がローテーションで作成しており、利用者へ食べたい物を聞き、取り入れています。季節感のある食事を提供しており、定期的に出前もとり、利用者の方々へ喜んで頂いています。調理の手伝いや食器拭き等を役割として行っています。	献立は利用者の希望を聞いたりしながら職員が作成し、3食とも職員と利用者の手作りで家庭的な食事を提供している。メニューはバラエティーに富んでいる。季節感にも配慮され、明日は「大黒様のお年越」という。また、今年は外食がしにくいので、すしなどの出前を頼むなど、行事食に加えて食事が楽しみなものになる工夫に努めている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態で、栄養バランスを考慮し提供しています。一日の水分摂取量や食事量、代替等をケース記録に記載しチェックしています。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つようになっています。出来ない所は介助し、口腔の状態もチェックしています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行い自立に向けた支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、それを基にパターンを検討し、時間や声の掛け方を確認し合いながら、日中は出来るだけトイレで排泄するよう支援している。排泄支援の具体的方法を計画に記載し、評価を繰り返しながら自立に向けた支援を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、毎日ヨーグルトや牛乳などを提供したり、水分量をチェックしています。レクで腹圧がかかるような軽体操等行ったり、適度な運動も心掛けています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて、週2～3回の入浴を実施しています。一般浴、機械浴があり、その方のADL状態にあった入浴方法を行い安全に行っています。午前浴・午後浴をなるべく利用者の希望に添った形で対応しています。	利用者の体調や希望を踏まえて、週2回か3回、午前か午後に入浴を支援している。身体能力に対応して、機械浴も選択している。入浴を好まない利用者には、声掛けを工夫している。また、くつろいで入浴できるようにバラ風呂などの変わり湯を用意したり入浴を楽しめるよう工夫も行っている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで過ごせるような環境となっています。シーツやタオル類はリネン業者の物を使用し、常に清潔に保つようになっています。居室の温度や湿度に気を付け、快適に休めるように支援しています。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、処方箋を確認し、変更後の体調等の観察をしっかり行っています。抗精神薬など、取扱に注意を要する場合は、申し送りや会議等を通して情報共有しています。誤薬がないよう職員二人で必ずチェックし、手渡しで確実に服用しています。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、その方に合った役割や楽しみの提供を行っています。役割を持つことで、自信を持つことが出来、生きがいを感じられるように支援しています。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で、ソーシャルディスタンスを心掛けた外出支援しています。今年は買い物や外食などの外出支援は控えています。密を避けたドライブや散歩等で外出の機会を設け気分転換を図っています。	コロナ禍の中でも出来るだけ外気に触れられるよう、散歩したり、畑の水やりをしたり、日光を浴びたりする機会を大切にしている。今年は年間計画通りに行事をできなかったが、「蕨どり」「紅葉ドライブ」は皆で楽しんだ。また、職員が工夫して、屋内運動会を開催し、パン食い競争などを楽しみ、気分転換をし、体力筋力の維持にも努めた。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、本人・施設側でお金の管理は行っていません。ほしい物は、ご家族へ連絡を入れ持参して頂くか、家族が遠方にいる方は、施設側で立て替えて買い物支援を行っています。必要に応じて、社協の金銭管理援助事業を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、利用者本人が自由に電話をかけたり、受けたりできるように支援しています。手紙やハガキも定期的に書いて出す方もいて、繋がりを大切にしていけるよう支援しています。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはゆったりと落ち着きのある空間となっており、ソファでテレビを観たり、横になったりと居心地良く過ごせるよう工夫しています。	共有空間には、季節の花、思い出の写真、皆で作成した壁画などが飾られている。適切な温度・湿度管理が行われている中で、利用者は食卓やソファで思い思いに過ごしている。温度湿度を管理し清掃も行き届き清潔感を大切にしている。昼食の前に、皆さん一緒に、大きな声で、唱歌やナツメロを歌っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファなど、自分の好む場所でゆったりと過ごされています。各ユニット行き来出来るようになっており、気の合う方同士おしゃべりを楽しんでいます。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、自宅で使い慣れた物や部屋に飾っていた物などを持ってきてもらい、安心して過ごせるように工夫しています。	利用者のなじみの物は持参していただけるよう家族と話し、自宅とのギャップ解消に工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリーとなっており、車椅子でも安全に過ごせるよう広いスペースとなっています。			